

なとセン登録団体紹介

一般社団法人ファブリハ・ネットワーク

～暮らしを支える自助具を誰でも簡単につくれる環境を～



ファブリケーション(ものづくり)をとおしてリハビリを変えていきたい。そしてそのつながりをネットワークで繋げていきたいという思いが団体名には込められています。

一緒に作れる場所

代表の伊藤彰さんは、作業療法士として24年間従事し、在宅での生活環境や退院後の生活支援に携わってきました。その中で、病気や障がいを抱えることにより、今まで当たり前に出ていた生活動作が困難になるなど日常生活が変化してしまう様子を見てきました。

作業療法の一つに、生活動作を補う道具として自助具を使用するケースがあり障がいの程度や状況によって大きさや形、重さなどその人に合うモノでなければ大きなストレスとなります。

しかし、当時はカタログやインターネットから選ぶのが一般的で、届いた自助具が当事者の身体や状態に合うものは

少なく、使いづらさを訴える声を耳にしていたと言います。

そこで、当事者しかわからない悩みに寄り添いながら、身近で一緒に製作でき

る場所を作るため2018年に一般社団法人ファブリハ・ネットワークを立ち上げ本格的に活動を開始。2020年10月にはエムツー訪問看護ステーションとのコラボで、らふる名取事務所に「Fab Station Natori」工房を開設します。



【代表の伊藤 彰さん】

3Dプリンターの性能

伊藤さんが自助具作りで欠かせない「デジタルファブリケーション機器(3Dプリンター)」とは、製作のデータをもとに立体的な物質を作ることができるプリンターです。製作データさえあれば、どこでも同じものが作れるという再現性とミリ単位の

微調整もデータ修正で容易に行うことができる優れたものです。個別性の高い形状などにも対応し使い勝手の良い道具を作ることでQOLの向上にもつながります。

現在、3Dプリンターを用いた自助具づくりは世界中で行われ製作データはオンライン上でシェアすることが可能です。

伊藤さんも自助具作りで悩み立ち止まっている人の活路になればという思いで、製作データを公開しています。



【自助具(箸の補助)サイズ別】

もっと知ってもらいたい

コロナ禍の影響で、工房でのワークショップ開催などは控えています。オンラインを通じて3Dプリンターの使い方セミナーや自助具作りの情報交換など実施しています。イベント情報はFacebookで発信しているので興味のある方は「Fab Station Natori」で検索してみてください。

「障がいや高齢で体に不自由があっても、自分らしく当たり前にあった暮らしを取り戻せる自助具を、もっと気軽に自作できる環境を提供し、『飲ませてもらう』から『自分で飲める』を増やしていきたい。また、物理的・制度的・文化・情報などの環境因子を自分たちで創案し、偏見や差別などで誰も隔てない共創・共生社会の実現をこれからも目指していきます」と伊藤さんは語ってくれました。

問合せ先
一般社団法人ファブリハ・ネットワーク
代表：伊藤 彰
TEL：090-1707-8747
Mail：fabstationnatori7323@gmail.com